

**ASA用賀所長にグッドデザイン賞**

50年を超える歴史を持つ「グッドデザイン賞」に、ASA用賀（朝日新聞販売店）の井口忠寿所長（52）の写真）の受賞が3日、決まった。新聞販売店経営者が

自社ビルの応募で受賞するのは初めてという。15年前に建築した東京・世田谷区用賀にある店舗が受賞作。毎年に行ったり、地域の人たちと独り合ったり、クル活動に力を尽くしてきた。審査委員は「電子化が進む新聞に、販売店は顧客を拡大するだけでなく、地域との共生と文化的発信源としての存在が重要なポイントになる」というモデルケースだ」と高く評価した。



谷川用賀にある店舗がある店舗が受賞作。毎年に行ったり、地域の人たちと独り合ったり、クル活動に力を尽くしてきた。

平成 23年 10月 4日付 日刊スポーツ

**グッドデザイン賞 ASA用賀が受賞**



グッドデザイン賞を受賞したASA用賀の店舗＝世田谷区用賀4丁目

世田谷区用賀4丁目のASA（朝日新聞販売所）用賀がこのほど、2011年度のグッドデザイン賞（日本デザイン振興会主催）を受賞した。審査委員からは「電子化が進む新聞に、販売店は顧客を拡大するだけでなく、地域との共生と文化的発信源としての存在が重要なポイントになる。そのモデルケース」と高く評価された。

東急田園都市線の用賀駅前にある同ASAが現店舗に建て替えたのは1996年6月。現所長の井口忠寿さん（52）の父親が58年11月に創業した当時は木造2階建てだった。93年11月に駅北口通路が新しくなり、駅近くの世田谷ビジネススクエアのイメージに合わせて地下1階、地上4階建てのコンクリート打ちっ放しにした。

作業場がある地下は採光を考慮した設計で、日中の電力消費をおさえている。2階は、読者や地域の人が参加できる陶芸教室やミニコンサートなどを開く。同ASAには朝夕、朝日や日経など、取り扱う新聞が印刷工場からトラックで届く。騒音に配慮し、新聞はいったん地下の作業場に下ろして折り込みチラシを組み込む。その後1階に戻し、自転車などに積んで配達に向かう。

「新聞販売所に対するイメージを変えたかった」と井口さん。副理事長を務める用賀商店街では「用賀まちづくり株式会社」を立ち上げ、新しい事業に取り組みしている。「『格好いい新聞屋』を目指し、これからも地域に密着した取り組みを続けたい」と話している。

平成 23年 10月 17日付 朝日新聞 朝刊

**新聞販売所がグッドデザイン賞**

**ASA用賀「地域密着」も評価**

今年度のグッドデザイン賞（日本デザイン振興会主催）に、東京都世田谷区の朝日新聞販売所「ASA用賀」が選ばれ、9日に東京都港区の東京ミッドタウンで授賞式がありました。建物のデザインが優れていることに加え、子ども向けのゲーム大会を開くなど地域での活動が評価されました。井口忠寿所長（52歳）は「これからは地域に密着した取り組みを続けたい」と話しています。

グッドデザイン賞とは、日本デザイン振興会が、毎年いいデザインと認められたものに与える賞です。CMや広告で「GMマーク」を見たことがある人もいるでしょう。家電やクルマなどの製品が対象と思われがちですが、形の「ある・ない」にかかわらず、人によって生み出されるあらゆるものや活動が対象となります。昨年度はアイドルグループのASA

**かっこいいビル／子ども向けゲーム大会や陶芸教室も**



ゲーム大会で楽しそうに遊ぶ子ども＝東京都世田谷区用賀4丁目

その後、一階のエントランスで子ども向けのゲーム大会、二階の多目的ルームで陶芸教室やミニコンサートを開いたり、地元・用賀を紹介するホームページを運営したり、毎月地域情報満載のミニコミ紙を発行したりして、地域の人たちとの交流を積極的にしてきました。こうした活動が審査員から「文化を発信する場所として信頼され、住民のためになっている」と評価され、受賞が決まりました。井口所長は「新聞販売所のイメージを変えたかった。これからも『カッコイイ新聞屋』を目指します」と話します。外から見たデザインだけでなく、それが「くらしや社会を豊かにできるのか」という視点から評価されるグッドデザイン賞。来年、みなさんがデザインしたものが受賞するチャンスだってあるのです。



たくさんの地域の人たちが出入りするASA用賀の建物＝東京都世田谷区用賀4丁目

平成 23年 11月 10日付 朝日小学生新聞